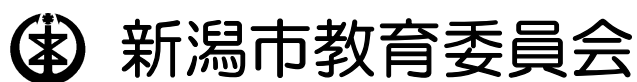


2020年度（令和2年）

新潟市の教育



教育委員会ホームページ

[新潟市トップページ](#) > [市政情報](#) > [新潟市のご案内](#) > [組織案内](#) > [教育委員会](#)

[新潟市トップページ](#)

目 次

新潟市のあゆみ	1		
新潟市の概要等	2		
新潟市教育ビジョン	3	生涯学習	
		生涯学習振興の方針	66
教育行財政		生涯学習センター	67
教育委員	18	公民館	71
教育委員会の機構	19	図書館	78
教育予算	24		
令和元年度主要事業概要	26	文化財	
		文化財の保護	92
学校教育		文化財センター	93
学校教育の方針	32		
学校図書館支援センター	37	《 資 料 》	
小・中学校の適正配置	39	●令和元年度教育委員会関係職員数	96
就学の援助・奨励	40	●市立学校園一覧	97
学校保健	41	●市立学校園施設状況	103
学校給食	42	●特別支援学級，特別支援学校設置状況	107
施設整備の方針	43	●新潟市に所在する新潟市立以外の学校園	111
		●生涯学習関係施設一覧	113
教員研修・教育相談		●令和元年度生涯学習関係施設の利用状況	115
教職員関係・教員研修	46	●文化財一覧	118
総合教育センターの運営方針	47	●新潟市内指定・登録文化財件数表	126
教育相談センターの運営方針	52	●体育施設一覧	127
特別支援教育サポートセンターの運営方針	55		
地域との協働			
地域と学校が協働する教育の方針	58		
青少年の健全育成・若者支援	60		
地域教育推進課	60		
若者支援センター	61		
芸術創造村・国際青少年センター	62		

新潟市のあゆみ

新潟市は、面積 726.46 km²、人口 786,625 人、世帯数 342,717 世帯(令和 2 年 4 月末現在、住民基本台帳)の規模を擁する港町、商業都市、そして田園都市として、新潟県の行政・経済の中心地となっています。

地理的には、県の北西部に位置し、サンフランシスコ、天津、リスボンとほぼ同じ緯度にあります。日本海、信濃・阿賀野の両大河、福島潟、鳥屋野潟、ラムサール条約登録湿地である佐潟など、多くの水辺空間と自然に恵まれています。また、コハクチョウの越冬数は日本一を誇り、平成 26 年 10 月 16 日、新潟市の鳥に「ハクチョウ」が制定されました。

新潟市域に関する文献上の記述は、日本書紀の大化 3 年[647 年]の「湍足柵」設置が最初で、延長 5 年[927 年]の延喜式に「蒲原津」が記されています。「新潟」の地名は戦国時代から見られ、江戸時代には日本海海運の拠点都市として発展し、天保 14 年[1843 年]には江戸幕府の直轄地となり、安政 5 年[1858 年]の日米修好通商条約により、日本海側唯一の開港場に挙げられ、明治元年[1868 年]に開港しました。

明治 22 年[1889 年]4 月 1 日の市制施行時は戸数 10,062 戸、人口 43,911 人でした。以後、港を中心として石油精製業、機械工業が発展し、工業都市としての色彩を強めるとともに、大正 3 年に沼垂町と合併して、近代港湾を修築するなど目覚ましい躍進を遂げてきました。更に昭和 6 年、上越線が開通し、新潟港は大陸と関東経済圏を結ぶ重要港となりました。昭和 30 年 10 月には大火、昭和 39 年 6 月には新潟地震と災害に見舞われましたが、これを乗り越え復興。この間隣接市町村と合併し、昭和 39 年 2 月に新産都市、次いで昭和 42 年 6 月には新潟港が特定重要港湾に指定されています。昭和 44 年 11 月には新潟東港が開港し、昭和 48 年に新潟空港が全国 8 番目の国際空港となり、昭和 57 年 11 月には上越新幹線が開通しました。

平成 8 年 4 月には中核市になり、平成 13 年 1 月に黒埼町と、平成 17 年 3 月 21 日及び 10 月 10 日に近隣 13 市町村との合併を経て、平成 19 年 4 月 1 日に政令指定都市になりました。歴史や文化財、郷土芸能、花や豊富な食材、豊かな自然など、さまざまな面でさらに魅力を加え、本州日本海側最大の都市として大きく飛躍しています。

教育・文化的環境としても、平成 17 年に「生涯学習センター」、平成 19 年に「ほんぽーと新潟市立中央図書館」、平成 23 年に「文化財センター」、平成 30 年 5 月には「新潟市芸術創造村・国際青少年センター(愛称:ゆいぽーと)」がオープンし、より充実した環境が整備されています。

また、平成 26 年 6 月にオープンした「いくとびあ食花」と、宿泊型農業体験施設「アグリパーク」を活用し、全国初の取組である「わくわく教育ファーム」が開始となりました。国内最大の水田面積を持つ大農業都市の特色を生かし、子どもたちが食育と農業体験を通じて豊かな心・生きる力を育むための取組を推進しています。

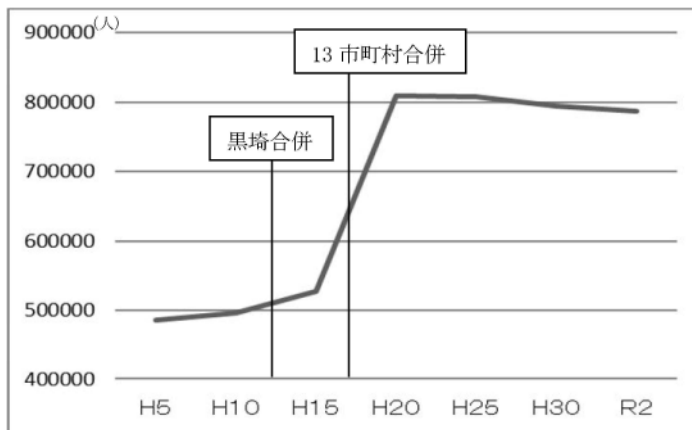
平成 29 年 4 月には県費負担教職員の給与負担をはじめ、教職員定数の決定及び学級編制基準の決定権限等について、新潟県から新潟市に移譲され、本市がより主体的で責任ある教育行政を行うことが期待されています。

◇新潟市の概要（令和2年4月末現在）

市制施行	明治22年4月1日	位置	極東 東経 139° 16′ 01″
面積	726.46 km ²		極西 東経 138° 47′ 03″
人口	786,625 人		極南 北緯 37° 40′ 44″
男	378,870 人		極北 北緯 38° 01′ 12″
女	407,755 人	広がり	東西 42.5km
世帯数	340,320 世帯		南北 37.9km

※人口、世帯数は住民基本台帳による。

◇人口の推移（平成元年～）



◇市立学校（園）数

小学校	106
中学校	56
高等学校	2
中等教育学校	1
幼稚園	10
特別支援学校	2

※分校除く

◇教育施設

教育委員会が現在所管している市立学校（園）を除くと、新潟大学教育学部の附属小・中・特別支援学校、県立の特別支援学校6校、私立中学校が3校あり、高校は県立18校、私立9校があり、大学は新潟大学をはじめとする8校、短期大学は日本歯科大学新潟短期大学などの4校がある。

生涯学習施設については、平成19年には「ほんぽーと新潟市立中央図書館」がオープンし、生涯学習センターをはじめ、公民館・図書館が市内各地にあり、さまざまな機会や場所において学習し、その成果を生かすことのできる環境があり、独自の活動や地域文化の振興に重要な役割を果たしている。

(年)

◇文化・スポーツ施設

本市では、平成20年4月1日から、文化及びスポーツに関しては市長の事務としている。

音楽文化会館・市民芸術文化会館・歴史博物館・文化財センターなど、市民にとって利用価値の高い施設が揃っており、文化的環境も充実している。平成25年には新潟市マンガ・アニメ情報館、新潟市マンガの家など、まちなかの空き店舗等を使って、マンガの世界を体感できるスペースが整備された。

体育施設については、平成26年2月に新潟アサヒアレックスアイスアリーナ(現・MGC 三菱ガス化学アイスアリーナ)がオープンし、野球場、テニスコートなどが各地にあるほか、陸上競技場、総合体育館など各種大会開催などに適した施設が充実しており、市民の健康づくり、体力向上のために盛んに利用されている。

平成28年9月には「アーツカウンシル新潟」を設立し、オリンピック文化プログラムに全市一体で取り組み、市民の文化芸術活動の活性化を図るとともに、国際観光の振興や経済活動の推進につなげ、その成果を継承し、持続的な文化創造都市の推進体制の構築を目指している。